



第122号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長 雄
 小林 義雄
 編集人 小会報編集委員 長
 中村 幸雄
 印刷所 須坂新聞社

研究委員会 中間総括

▽…子どもがねばり強く自己形成していく姿を求めて、四月以来、…△
 △…各研究委員会では、創意にみちた教育実践にとり組んでまいし…△
 △…た。それぞれの委員会では、どのような成果を得、どのような問…△
 △……△
 △……△
 △……△
 △……△

子どもの中に 「研究」を見る

研究副委員長 宮本 経 祥

研究するということは物事を単純化する道を得ようとするのではないだろうか。今年、このことを考え続けていたような気がする。

いつか、作文の授業をしたときのことである。偉い先生が「推敲することは余計な部分を削り去って短くすることなのに、どの文も長くなっていますね」と言われた。また別の機会に、安良岡康作先生が、「信州人には意義屋が多い」とおっしゃった。意義ばかり論じていて現実から離れてはいけないというご忠告かと思う。研究が進むにつれ、複雑になり、教室の現実から遊離していくことのないようにしたいと思うのである。

三枝先生は「授業分析の方向のもつ思想性を吟味してみ

る必要がある」と、講演の中で言われた。「自分は今日、何を望んで、何を期待し、この教材に子どもと一緒に取り組んでいこうとしているのか、そのことを考えてみたい。これが思想の問題だ」とも言われた。これは、授業分析が、目標のない単なる分析に終始してはいけないということとを主旨としているのだと思う。教師の価値観、目標と方法の相関の重要性について語られたのだと解釈できる。新たな授業発想を生み出すことを願う授業分析でなければならぬということも受けとれるのである。

「子どもがねばり強く自己形成をしていくための指導のあり方」という研究テーマを掲げて二年めである。学習へ

姿をみつめ、それを伸ばしたいと考えて設定されたテーマである。今年度の中心は、一年次の研究の成果に立って指導案を作り、授業記録をとり、授業分析を通して、ねばり強く自己形成をしていくための指導のあり方を追究するところにある。

今年度の全体研究会もあと一回となった。改めて、この子どもに何を期待し、そのためにどのような教材でどんな指導をするのかを、子どもの姿に学びつつ考えたい。そして、その結果を具体的な指導と子どもの姿が見えるようにまとめた。

《提 言》 子どもの心をつらえ 育てる学習を

今 泉 麗 子

自己教育力をつけるためには「自ら学ぶ学習を」と言いながら、教師サイドで授業を進めては行かないだろうか。

毎時間の中で、学習の進め方、課題の与え方、発表の仕方、グループ活動、機器の活用、ノートの使い方、学習の手引きの活用等を教科別に、学習の訓練をすることも大事

自己教育力をつけるためには「自ら学ぶ学習を」と言いながら、教師サイドで授業を進めては行かないだろうか。

毎時間の中で、学習の進め方、課題の与え方、発表の仕方、グループ活動、機器の活用、ノートの使い方、学習の手引きの活用等を教科別に、学習の訓練をすることも大事

なことはないだろうか。

学習の訓練とは、型にはめこんだ学習ではなく、自己教育力を育てるために、子どもがねばり強く学習する態度を養成するものである。

「教える」と「考える」を育てるために、子どもを育てるために、その心を開き、より確かな授業の実践をつみ重ねたいものである。

(豊丘小)

—上高井教育会だより—

- 10 第39回日本連合教育会茨城大会。本会参加者 17 4名。
- 11 郡市PTA連合会研究会(須坂小学校)。
- 18 教育課程研究協議会。
- 20 信教全県研究大会(大町西小) 参加者2名。
- 5 第7回代議員会・信教各種研究調査編集委員 中間報告(第2回)
- 10 信教全県研究大会(辰野中) 参加者1名。
- 14 第8回上高井女教師研究大会(須坂小学校校 聴覚室)
- 19 信教全県研究大会(上田第2中) 参加者3名 秋の講演会。
- 20 第9回研究発表会(須坂小学校視聴覚室)
- 21 信教全県研究大会(三輪小) 参加者26名。
- 26 教育会中間会計監査。
- 27 信教教育懇談会(信濃教育会館) 参加者9名
- 22 第8回代議員会・信教各種研究調査編集委員 中間報告(第3回)

自ら追求する 国語教育をめざして

— 国語教育委員会 — 前角 昭 男

「子どもが自ら追求するた
めの国語学習はどうあったら
よいか」を昨年に引き続き
研究テーマとして四月から研
究を重ねてきた。今年度は第
一回研究授業を仁礼小学校に
お願いし、「詩の朗読学習」
を通してテーマに迫ろうとし
た。

豊かな自然環境の中で育つ
子どもたちは、素朴で素直
であるが自己表現力に乏しい
。このような子どもたちに、自
然の広がり、雄大さを感じさ
せる詩「山頂から」の朗読に
重点を置いた学習で、詩を読
んで受けたイメージを読み声
に表わし、さらにイメージを
ふくらませ表現力をつけよう
と試みた学習展開であった。

力をめざして した実践に向けて

○水平線をめぐって、教材
解釈が二つに分かれたが、国
語学習では大事な点であった
。国語委員会では郡の全体テ
ーマ「ねばり強く自己形成し
ていく」を、学習への意欲を
基底とし、今日の社会にあっ
て、主体的に生きることので
きる人間、主体的に物事に対
応できる能力のある人間の育
成をめざすこととし、自己教
育力は本質的には、その子の
「やる気」であり、その基本
となるのは「興味・関心」「必
要感」「自立心」であるとい
う認識をもって研究している
。それには子どもの経験を軸に
して教材を選定し、その子の
生活経験に即して追求できる
場を作ることが大切であると
考えている。学習カードでね
ばり強く学習した仁礼小の子
どもに学びながら、さらに研
究を深めていきたい。(日野小)

○対象生の言ったことをみん
なで考えて朗読を聞いたとき
に共通な学習課題となる。
○詩は全体のイメージ・リズム
が大切であるから、部分の
イメージを深めるにも全体と
のかかわりで考えさせたい。
全文を掲示する工夫がほしい。
○解釈を共通理解とした上で
読み声の中に表現を工夫させ
ると学習が深まるだろう。
○対象生の読みもよく、児童
も精いっぱい評価し支えてい
るが、朗読の評価は「正しさ」
「ふさわしさ」が観点となる。
○個人学習を大切にしている
ことがすばらしい。書きこみ
の際消しゴムを使わせなかつ
たことは、自分の考えを深め
ることに役立っている。
○個人学習をもとに、他とか
かわりながらまた自分にかえ
る、自分が深まること個の
自己教育である。
○子どもの発言や読みの違い
を教師が明らかにすることが
教師の出であり「教材化」す
ることで、学習を深める。

拮抗状態を創り出す 授業をめざして

社会科教育委員会 井上 光 由

「わかった、楽しかった、も
っと調べてみたい」という声
が子どもたちから出てくる授
業にしたいという願いから、
問題解決の原動力になる学習
意欲をどう喚起したらよいか
が、本委員会の課題になっ
ている。
今年、子どもが拮抗状態
を体験し、その事態を自らの
力「こえていくときに「自己教
育力」が培われるとする仮説

学校づくり 磨智仁勇 森上小学校



本校は、
昭和九年、
須坂小学校
森上部とし
て開校し、
以来五十三
年の歴史を
もつ。
「智仁勇
三者天下之
達徳也(大
学)からと
った学級名
の「智仁勇」は、開校以来一
貫し本校教育の伝統的地域的
基底として今日に生き続け森
上教育の源泉となっている。
今、本校の教育目標を「明
るく豊かな力ある子ども」と

決め、「明るく直き心」を教
育の姿として玄関前の自然石
に刻みこまれている。豊かな
人間性を身につけ、無限の可
能性をもって二十一世紀を担
い、未来を創造する子どもに
なろうと、智を磨き、心の徳
を育て、気力の体に満ち満ち
る子どもたらんとして頑張っ
ている。一部を紹介します。
教育環境整備の一環として
つくられた学園道路は、空地
海に住む代表的な象、パンダ、
クジラなど三十余种の動物を
モザイクで配置され、子ども
に親しみと潤いを与えている。
この道路を「あいさつ道路」
と名付け「誰とも明るくあ
いさつしよう」と呼びかけ、朝



第一回委員会では、中心講
師の三枝先生にお出でいただ
き、常盤中の牛山先生に中学
二年「須坂市の果樹栽培」の
授業をしていただいた。和や
かな雰囲気での授業だったが、
立ち止まって、みんなで検討
し追求する場面は少なかった。
折角、「こは日本のまん中
だから、たくさん作って出荷
すればもうかる。」と、それま
での気象条件とは別の視点か
らの発言があったが、全体の
場で検討されずに終わっている。
この発言を中心に話し合いが
深められたら、新たな疑問が
生まれて意欲的に究明しよう
とする活動が展開されたかも

の第一声を交わし、出会いを
感謝する人間的ふれ合いの場
として教育に生かしている。
今年度と二カ年間で、文
部省の研究指定校として研究
成果を広く公開していく予定
であるが子どもの50%発言を
めざした個が生き追求する授
業の改造をはかってきている。
須坂の製糸を理解するために
古老のお話を聞き糸のとり方
の実演を見て、やってみるな
どの体験的学習を取り入れた
上で、越寿三郎の業績や世界
へのつながりを子どもなりに
追求理解していくというよう
に授業創造を目ざした研究に
没頭している日々である。
(若林輝光)

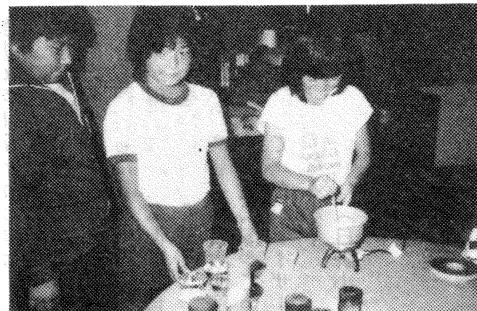
教育実践

子どもの生きる

—子どもを主体に

人間としての自立をめざして

— 特殊教育研究委員会 — 田 中 義 人



当委員会のテーマは、個々の障害の多様化している学級集団で、ひとりひとりが自ら課題を発見し、意欲をもってとりくむ態度をどのように指導したらよいか。人間としての自立をめざしてである。第一回の授業研究は高山小学校で行われた。

「子どもたちに人間としての自立をめざすには、それぞれの能力にあった作業等を通して、その子なりに達成できた喜びを味わわせていくこと」ということで、「テーブルを飾るものをつくらう」という生活単元の授業が設定された。

お世話になった先生方をお呼びして「お茶会」をしたいその時にテーブルを飾る為のコースターや、キャンドルを作る活動が中心であった。

①子どもたちに成就感を持たせるために。
②作業の量を考え、苦勞し「やった!」と思う気持ちを持たせるようにすること。
③子ども自身が内容を知って、意欲を燃やせるもの。早くやりたい、作ってみたいといった動きが出るようにゆさぶりをかける。
④子どもたちが目標を立てられ、自己評価できる場面の設定をする。
⑤教師は教材の作業分析を行い、作る過程で子どもの動きを見とり、適切な援助と心配りをしていく。

②生活単元による学習は、子どもたちを主体的にする。
①子どもが目あてをもって計画できる。

②成就感を味わえる経験を入れること等の条件がきめ出された。
③子どもたちに生きる力をつけ、自立させていくには、多種多様な経験を積み上げて豊かな生活をはぐくむこと。

子どもの姿から学ぶ

算数数学委員会 西 沢 享 良

T 順位つけられそうかな、どうしたらいいのかな。
C1 手、足、棒などで測ればいい。
M男 でも、見ればだいたいわかっちゃう。N子ちゃんの勝ちだ。
C2 足でやってみよう。
M男 でも、足の大きさがちがうよ。
C3 足の大きさがちがうとね 大きい人の方が数が少なくなっちゃう。
C4 同じ人で行る。一人の人がやればいい。
M男 Vサイン をする。

等多くのことが示唆された。小委員会では、授業記録をもとに、子どもたちの見とりを多角的に見かえしている。第二回研究会では、教材開発として、山岸鶴雄先生を講師に陶芸の講習会を実施した。(栗力丘小)

で授業を行いました。場面設定や教材研究・教師の出がよかったため、子どもたちが、具体的にねばり強く意欲的・活動的に取りくんで測る場面が見られた。足で測る場面が特に良かった。M男の「でも、見ればわかっちゃう」から、真剣に授業に取り組んでいく姿はまさに自己教育力が育っているものと考ええる。

本委員会では二回の研究会を通して以下のような実践をしてきた。
一 第一回研究会
(1) 同対審答申以来今日に至るまでの同和対策、同和教育的歴史をふまえ、今後の学校同和の展望を明らかにする一つの契機として、「地域改善対策啓発推進指針」の読み合わせ研究の実施。この中で特に学校教育において「基本的人権尊重徹底、児童・生徒の発達段階の十分な考慮」が強調されており、大筋では我々の現在の教育の方向と一致しているが、人権感覚と児童・生徒の発達段階との関係をどのように抱えるかが課題として浮きぼりにされた。

人権感覚に支えられた自己形成を…

— 同和教育委員会 — 丸 田 鶴 弥

七月二十七日 第二回研究会
委員会で、日滝小での授業をもとに授業分析をおして自己形成をしている姿をとらえ、その具体的な観点について研究を深め、よりよい指導のあり方をさぐりました。(相森中)

これらのことから児童・生徒の人権感覚にかかわる実態を、個々の子どもとの価値観に踏み込んで綿密にとらえる必要があることや、人権感覚に支えられた自己形成のための授業構造や展開についての見直しが必要である。
二 第二回研究会
(1) 人権感覚に支えられた自己形成に至るまでの展開構造を次の様に考えた。(仮説)

ありのままの自己 → 自己の修正・変革 → 新しい自己 → 社会正義のために行動できる自己

① 実態
・善悪の判断の育ちを阻んでいる
・人権感覚の洗い出し
・事実(先入観・偏見)の要因
・教材を通じた新しい価値の発見
・友だちの先入観・偏見の是正
・誤った価値観の修正
・新しい価値観の獲得
・新しい平等観の成立
・基本的な人権の尊重
② ①より身近な問題として考えさせ、共に差別を解消していくこととする態度を育てるための教材化はどうあったらよいか「を協議題として、解放子ども会の教材化の現状から問題を洗い出した。その中で「解放子ども会に参加しているくせに」「交流教育の困難点」「差別的現実の把握」などが問題点として出され、解放子ども会の有効な教材化のあり方が、そのねらいの明確化も含めて今後の研究課題となった。(旭ヶ丘小)

火はほら



今年もまた、校内音楽会が近づいてきた。どのクラスもそのための練習に、エンジンをかけ始めた。中には、夏休みが明けてすぐ選曲をし始めた学級もある。音楽と一口に言っても、子どもをはじめ、教師によっても好き嫌いがあって、中には、一年のうちで最も恐怖の行事と考えておられる先生も少なくない。私にとっても、昨年の九月頃までは、新卒教師としてこ

音楽 おんがく ONGAKU

関千恵子

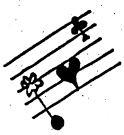
の行事に対する心構えがしっかりできず、かなりの不安を抱いていたのである。ピアノを習った経験だけを買われ、一応は音楽係としての任務も課せられていたから余計である。学級の実態から見ても、音楽の授業中は音が通らないほどのざわつきが生じるから夜も眠れない程悩んだものだ。しかし、なせばなるもので

子どもたちの好きな歌を選曲し、やりたい合奏曲をやった結果、自分でも、気持ちが悪い程良い評価がかえってきた。何と先生を含めた我がクラスは、歌のクラスと言われるようになってしまった。

驚いた事に、そう言われると、その気になり、みんなとっててもとっても音楽が好きになった。かっこいい伴奏の曲などは、特に覚えが早い。

思えば、私が小学生の頃、学校の授業の場以外では、自分自身歌というものを人前で口ずさんだ事がなかった。音程は何とかとれるが、何しろ声が悪いと思ひ込み、絶対歌わなかった。たまに隠れて歌っているのを聴かれると、家族の者に冷やかされた。リズム感もなく、ダンスも苦手で、きこえない踊りしかできなかった。しかし今では、自分も子どもたちとともに、音楽が得意なんだなあ。と自己暗示をかけている。

今年の音楽会、私自身が調子にのってやる気になってい



(日野小)

プロの教師を目ざして

太田 徹

「これ、どう？」
妻が目の前でポーズを取る。
「髪型かな？ スーツ？ 何だろう？……わからん……」

「全く鈍感な人！ そんなに鈍くてよく教師が勤まるわね。」
あきれて妻は行ってしまおう。「愛情さえいっぱいあれば、それでいいじゃあないか。」妻の背中にポツリつぶやく。何度繰り返されてきたことか。
高校の教員になって間もなく、「教育者には教育の精神を以て教える人と、教育の形式で教える人と、二種類ある」という言葉を耳にした。是非「教育の精神」でいきたいと思っ

た。以来十三年、「教育の精神」が「愛情万能主義」に変わってしまったようだ。
今年の四月、中高交流で中学に来た。天と地ほどの違いに驚き、戸惑い、リポビタンDと他の先生方に助けられて、何とかここまで来たけれど、自分はいかに熱意・愛情だけのアマチュア教師であったかを十四年目にして痛感させられた。プロとしての数多くの優れた技術をも身につけてこそ、プロなのだ、と。
妻の髪型の変化さえ気付かず、どうして何十人も生徒の実態をつかめよう。自分の思いを的確に表現する術もなした。「それでも理解してくれないはずだ。」なんてよくも楽観的でいられたものだ。
生徒の右手の小指のかすかな動きに気付き、即座に指名でみる、そんなプロの教師になりたいものだ。(墨坂中)

私の夢は……

有賀 宏道

小生、有賀宏道だいま26才10ヵ月。大学を卒業してよ

どに行つたのだろう。」と星空に聞いてみました。しかし星はただ私に美しいほほ笑みを返してくれるだけなので

ありました。夢にみていた独身貴族の生活はどこへ行ってしまったのでしょうか。独身貴族という言葉はいつか誰のためにあるのでしょうか。ただ小生にも救いはあるの

郷土の文化財

秋葉神社 職

本郷町・蓮生寺・秋葉宮

その昔は

(高井鴻山大幡写真集より 小布施町教育委員会)

秋葉神社の職は蓮生寺第二十九世常寛の時に(文久三年)常寛が機を織り、その布に高井鴻山が揮毫したもので、鴻山56才の作であるという。(現住職・林秀皓氏談)

長さ二・〇九メートル、幅一・四六メートルの木綿地に書かれている。

掲揚場所は秋葉神社の参道鐘楼門より約五十メートル手前である。しかし現在は破損をそれぞれ春秋の祭にも掲揚してない。

職は長持に納めて蓮生寺の本堂に保管されている。(小山)

編集後記

であります。それは、立派な上司とやさしい子供にめぐまれたことでもあります。

先月小生の教え子が七人連れだつて休みの日にやつて参りました。うれしいじゃありませんか「先生たまには、手作りのものを食べさせてあげてね。」と言ってくれるのです。そのとき私はベットの

上で、掃除のやり方と整頓の仕方を指示すればよいだけなのです。新聞紙やゴミが散乱し、クモの巣がかかっている部屋もまあまあきれいになりました。お星様私の夢をかえして下さい。あなたなら私の心の願いがわかるでしょう。

(高井小)

▼二学期の研究や研修等の充実する時を迎えてきました。各研究委員会からの教育実践の報告には、その充実ぶりが大変よくうかがえます。教育論議が方々で繰り広げられる今日、地道な現場での積み重ねこそ大切ではないかと思われ

▼今回原稿をお寄せ下さった先生方、お忙しいところ執筆いただき本当にありがとうございます。編集の都合上、先生方の十分な原稿スペースがとれず、御迷惑をおかけいたしましたことを深くおわび申し上げます。(島田 小山)